

はつらつ部会研修会

宇仁校区はつらつ部会を構成する区長会、民生児童委員、シニアクラブ、女性会、PTA、消防団、社会福祉協議会が、今後高い確率で起こりうる南海トラフ地震や災害に備えて、12月9日神戸市の「人と未来防災センター」へ視察に行きました。

最初にガイダンスルームで、1995年1月17日午前5時46分、兵庫県淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、高齢化が進む大都市を直撃して多くの人命が失われ、甚大な被害をもたらした出来事を体験した語り部の講話を聴き、シアターフロアでは映像と震災直後の街並みがリアルに再現された展示を視察しました。

また、こころのシアターでは、災害列島と言われる日本で暮らす私たちが実際に災害に遭遇したとき自らの命を守ることができるのか、そのためにはどうすべきかを問いかける「にげよう-大切な命を守るために-」を鑑賞し、日頃の備えの大切さを学びました。
(宇仁校区はつらつ部会)



うにバスの運転、3年3か月で定年退職！

令和2年10月に試験運行が始まった、宇仁ふれあいバス(うにバス)。その1か月ほど前、5人のボランティアが、「自家用有償運送車両」運転者の講習を受けたことを聞きました。

年齢が75歳までとのことでしたが、5人では運行が大変だと思い75歳以上でもよいかと申し入れ、小生も含めて2名が追加講習を受けました。ボランティアの内訳は国正町2名、田谷町2名、小印南町1名の計5名で小生の町からは誰も参加していなかったのも参加理由の一つです。運行前開始前の準備として、簡易ガレージの設置や運行関係書類作成用パソコンの手配等も手伝うことになりました。運行前にルート確認を2~3日かけて実施し準備を終えました。

試験運行開始当日、来賓として当時の西村市長にも参加していただき出発式を行いました。5人お客さんを乗せて第1便のハンドルを握りました。以後、月に4~5回の半日勤務で運転をしてきましたが、乗客には「便利で助かる」と喜んでいただきました。特に免許返納をされた方からは「ほんとうに有難い」と感謝の言葉をいただき、こちらが恐縮する思いでした。今までは少ない月で60人程、多い月には100人以上の方に利用してもらっています。今後も、少なくとも80人は乗車してもらいたいと思っています。

この度、令和6年で80歳になるのを機に運転ボランティアを定年退職させていただきます。この間、パンクが1回だけで、事故もなく運行できたのも、毎回車両の点検や運行指示を出して下さった縁の下の力持ちの管理者の方々のおかげだと感謝しています。運転ボランティアも3増1減で支障なく運行できています。運転ボランティアは半日単位で都合の良い日を申し出て勤務にあたることになっており、月に4~5回の勤務なら忙しい方でも参加できると思います。積極的なボランティアへの参加をお願いします。

今後も、住民の方々の暖かいご支援で高齢者の地域の足として「うにバス」を利用いただき、暖かく見守ってもらいたいと思います。また、いつの日にか利用者としてもお世話になりたいと思うこの頃です。有難うございました。
(うにバス運転手 繁田 昭彦(80))



編集雑感

例年だと2月号は記事が乏しく、紙面を埋めるのに苦労してきましたが、今年は沢山寄稿していただきありがとうございます。紙面の都合で掲載できていないものもあり、次回以降に持ち越しです。小学校児童の活躍を紹介する記事も多くなってきました。今後の活躍が楽しみです。
(情報部会)

